

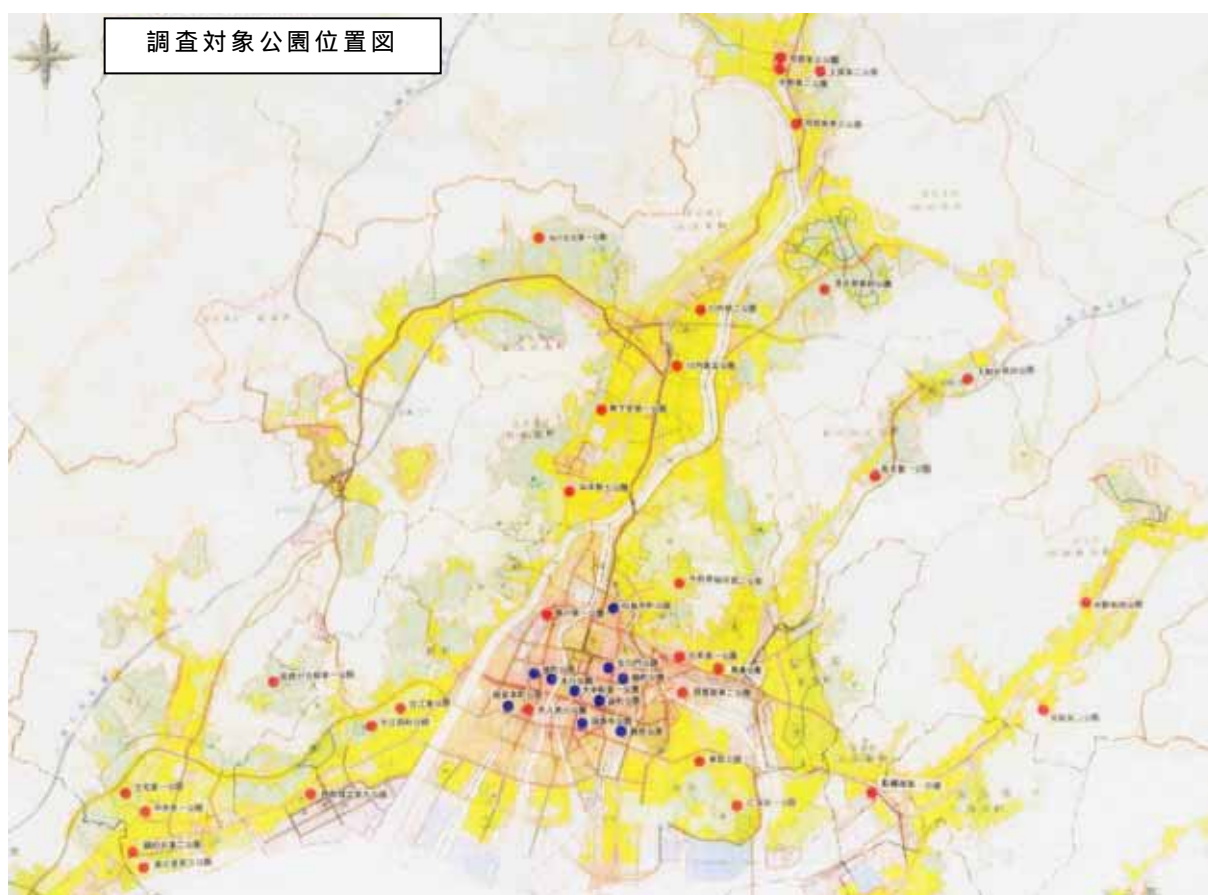
3 公園の利用実態

身近な公園再生構想の実現に向け、現在の公園の実態を把握するため、公園利用実態調査と小学生を対象としたアンケート調査、市民を対象としたアンケート調査の3つの調査を実施しました。

(1) 公園利用実態調査

ア 公園利用実態調査の概要

公園利用実態調査は、平成12年(2000年)・平成13年(2001年)の秋季の6時から20時までの観察により、市内の42公園において、「公園が現在どのように利用されているのか」を把握することを目的に、来園者の年齢層、性別、入・退園時間、利用施設、利用目的を調査しました。



イ 公園利用実態調査の結果

特に意外であった結果は次のとおりです。

(ア) 利用者数

下表は、調査公園を利用者数の多い順（一日平均）にならべたものです。利用者数、利用率は、都心中心部及び都心周辺部に位置している公園で多く（高く）なっています。

また、面積の大きな公園では、利用者数が多い傾向となっていますが、面積が大きいにもかかわらず、利用者数の少ない公園があるなど、必ずしも面積が大きければ利用者数が多くなるといった結果にはなっていません。公園がどこに立地しているかに大きく左右されています。

公園の平均在園時間は、利用者数や公園面積との相関関係は薄く、どの世代に利用されている公園であるかに左右されています。（小学生以下は、利用時間の長い運動系利用が主であり、大人は休憩、散歩、喫煙など短時間での利用が主となっています。）

利用率：利用者数 / 誘致圏推定人口（公園から約 250 m 圏内）× 100

—利用者数一覧—

公園名	都心及び郊外部	区名	公園面積 (ha)	利用者数 (人)	利用率 (%)	平均在園時間 (分)	競合公園 の有無	複合遊具 の有無	トイレ の有無
袋町公園	都心中心部	中区	0.51	748	68	18		有	有
国泰寺公園	都心周辺部	中区	0.37	444	51	171			有
舟入第一公園	都心周辺部	中区	0.27	408	16	24		有	
大手町第一公園	都心中心部	中区	0.11	329	69	12		有	有
舟入第三公園	都心周辺部	中区	0.27	322	14	32			有
鶴見公園	都心周辺部	中区	0.43	320	19	19		有	
白島中町公園	都心周辺部	中区	0.44	290	16	25		有	有
尾長公園	郊外部	東区	0.33	274	13	14		有	有
本川公園	都心周辺部	中区	0.37	270	18	18			有
横川第一公園	都心周辺部	西区	0.19	270	12	10		有	有
京口門公園	都心中心部	中区	0.11	263	52	6			
観音本町公園	都心周辺部	中区	0.26	215	14	31	有(街区公園)		有
嶋町公園	都心中心部	中区	0.30	210	19	25		有	
中央第一公園	郊外部	佐伯区	0.10	191	9	26		有	有
櫻町公園	都心周辺部	中区	0.23	184	12	25		有	有
川内第二公園	郊外部	安佐南区	0.43	179	26	31		有	有
山本第七公園	郊外部	安佐南区	0.19	169	13	29		有	有
若草第一公園	郊外部	東区	0.08	128	8	28			
牛田早稲田第二公園	郊外部	東区	0.19	120	5	11	有(街区公園)		有
西蟹屋第二公園	郊外部	南区	0.13	117	8	31	有(街区公園)		有
三宅第一公園	郊外部	佐伯区	0.15	101	8	22		有	有
西部埋立第九公園	郊外部	西区	0.28	92	11	16	有(近隣公園)		有
船越南第一公園	郊外部	安芸区	0.11	92	8	27		有	
川内第五公園	郊外部	安佐南区	0.16	88	6	43			
可部第三公園	郊外部	安佐北区	0.10	81	11	31		有	有
中野第二公園	郊外部	安佐北区	0.15	79	12	20			
古江東公園	郊外部	西区	0.21	78	4	43		有	
隅の浜第二公園	郊外部	佐伯区	0.15	69	5	33	有(街区公園)	有	有
緑が丘北第一公園	郊外部	安佐南区	0.19	69	3	15	有(街区公園)		有
平原第二公園	郊外部	安芸区	0.15	68	8	46		有	有
中野第四公園	郊外部	安芸区	0.12	63	10	28		有	
仁保第一公園	郊外部	南区	0.13	62	4	36	有(街区公園)		
美の里第三公園	郊外部	佐伯区	0.10	61	3	23	有(街区公園)		有
古江西町公園	郊外部	西区	0.18	50	3	34			
東霞公園	郊外部	南区	0.05	48	3	23			
南下第一公園	郊外部	安佐南区	0.25	43	4	53			
落合南第四公園	郊外部	安佐北区	0.23	42	4	34	有(街区公園)		
可部南第三公園	郊外部	安佐北区	0.12	37	9	18			有
馬木第一公園	郊外部	東区	0.04	33	5	13			有
美鈴が丘緑第一公園	郊外部	佐伯区	0.10	32	2	14	有(街区公園)		有
大和台第四公園	郊外部	東区	0.06	20	4	53	有(街区公園)		
上原第二公園	郊外部	安佐北区	0.18	8	2	29			

なお、利用者数の多い公園と少ない公園では次のような特徴があります。

■利用者数の多い公園の特徴

- 公園の利用特性
 - ・ 都心中心部及び都心周辺部に位置し、地域住民以外の就労者や買い物客などの利用者が多い。
 - ・ 学齢前から高齢者までの全ての世代に利用されている。
 - ・ 子ども連れでの利用者が多い。
 - ・ 一日を通じて誰かしらの利用がある。
- 公園の形状・施設
 - ・ 公園面積が標準面積（0.25ha）よりも大きく、公園内で休憩、遊戯、広場などの利用が分担できている。
 - ・ 公園内に複合遊具や複数の遊具があり、トイレがある。

■利用者数の少ない公園の特徴

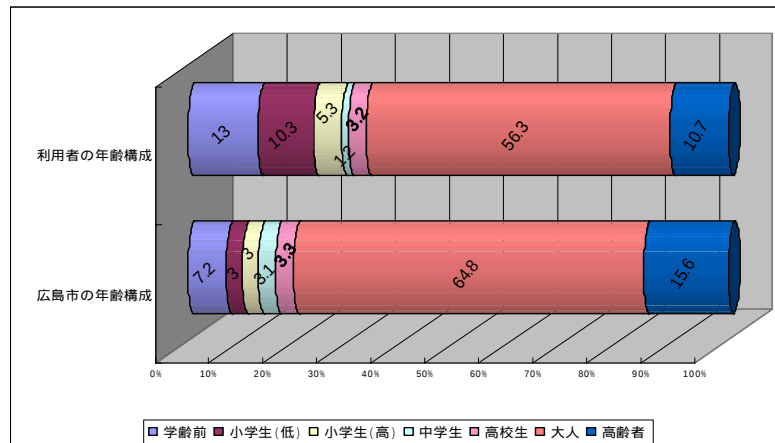
- 公園の利用特性
 - ・ ある特定の世代の利用がかけている。（大人の利用が少ない、学齢前の利用が少ないなど）
 - ・ 利用者のいない時間帯がある。
- 公園の周辺環境
 - ・ 誘致圏推定人口が少ない地区に位置している。
 - ・ 周辺環境の変化が著しい。（高齢化の進む地区であるなど）
 - ・ 近くに競合する公園がある。
- 公園の形状・施設
 - ・ 面積が小さいため、公園内での利用の機能分担が十分にできていない。（広場が中心となり、休憩スペースがないなど）
 - ・ 公園内に複合遊具、トイレがなく、公園内の見通しが悪い。

（イ）年齢構成

調査公園の年齢構成比を見ると、小学生以下の世代によく利用されています。小学生以下の世代（学齢前、小学生低、小学生高）は、広島市の年齢構成（13.2%）と比較すると、人口比2倍を超える28.6%を占め、高い割合となっています。

小学生以下の世代は、利用時間の長い運動系利用が主となっています。一方、利用者全体の約56%を占める大人は、1日を通して利用があるものの、喫煙、トイレ、散歩、休憩など短時間での利用が主となっています。

中学生の割合は利用者全体の1.2%であり、極端に低くなっています。

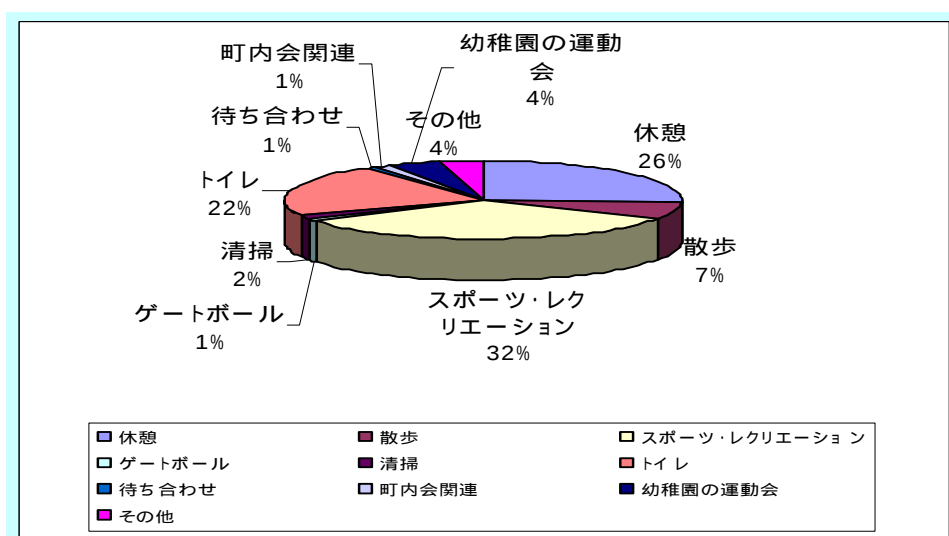


(ウ) 利用目的

公園の利用目的は、スポーツ・レクリエーションが32%と最も高く、ついで休憩26%、トイレ22%、散歩7%などの順となっています。意外にもトイレ利用が多い結果となっています。

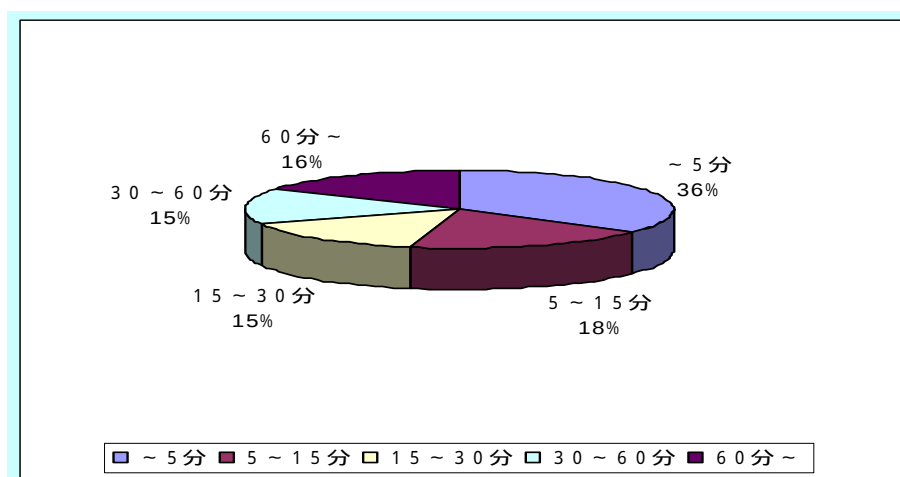
都心中心部及び都心周辺部では、付近に業務施設、集客施設が立地しているため、地域住民以外の利用者（特に大人）の利用割合が高く、休養系利用が主となっています。特に都心中心部ではその傾向が顕著で、多くの利用者がベンチ替わりに縁石、石積みなどを利用していることから休憩利用への高いニーズがうかがえます。

一方、郊外部の公園については、小学生以下の利用割合が高く、小学生以下の利用を反映した運動系利用が主となっています。



(エ) 在園時間

5分未満の利用者が約36%を占め、高い割合を示しています。5分未満の利用はトイレや喫煙などが主となっています。一方、60分以上の割合は、16%であり、長時間の利用が少なくなっています。



(オ) その他観察による気づき

公園利用実態調査における観察による調査では、公園によっては、次のようなコミュニティの形成機能が伺えました。

- 地域住民による日常的に行われている50人程度のラジオ体操
- 学齢前の子どもを持つ保護者同士のコミュニケーション
- 地域における公園での清掃活動
- 最初は違うグループで遊んでいた子どもたちがいつの間にか一緒に遊んでいる現象



ウ 公園利用実態調査のまとめ

■ 公園の在園時間

利用者の約４割がトイレ利用や喫煙など５分以内の短時間利用であり、６０分以上の利用が約２割と長時間の利用が少なくなっています。

■ 利用者の年齢構成

小学生以下の世代は、広島市の年齢構成比の約２倍を越え、利用割合が高くなっています。また、その利用は在園時間の長い運動系利用が主となっています。

一方、大人は利用者全体の約６割を占めていますが、喫煙、トイレ利用、散歩、休憩などの短時間での利用が主となっています。

■ 公園ごとの利用者数の格差

調査公園は、学齢前から高齢者まで幅広い世代に利用され、１日を通して利用者が絶えない「利用者数の多い公園」がある一方、利用者がまばらで公園に利用者がいない時間帯があるといった「利用者数の少ない公園」があるなど、公園ごとに利用の格差があることが明らかになりました。

■ 公園の立地特性

公園の利用者数、年齢構成、利用目的は、公園の面積・施設内容というよりはむしろ、公園が立地している環境に大きく左右されていました。

特に都心中心部の公園では、地域住民以外の就労者や買い物客による休養系利用が多いことなど、その傾向が顕著に見られました。

また、調査公園の中には、子どもの利用があまり見られない公園があるなど、周辺環境の変化に適合していない公園も見られました。

■ 地域の交流の場としての機能

公園によっては、日常的に行われている５０人程度のラジオ体操、学齢前の子どもを持つ保護者同士のコミュニケーション、最初は違うグループで遊んでいた子どもたちがいつの間にか一緒に遊んでいる現象など、地域の交流の場としての機能が伺えました。

